

平成17年度の検討概要

(1) 手法の改良開発

① 新手法開発の検討基準

- 自然の力の活用（毎年供給されるリターの活用等）
- 天然材料の利用（環境負荷を最小限にする）
- 景観の維持（自然公園の景観と調和させる）
- 維持管理の容易な構造（一部の破壊が浸食の拡大を招かないように）

② 手法区分と主な狙い

	リター捕捉ネット リター捕捉ロール工類	木製筋工	急斜面用保護柵
手法区分	リター	勾配・被覆	植生
今回試験施工の主なねらい	構造の耐久性、施工性	サイドや下流の浸食対応	急斜面での強度、施工性

③ モニタリング・検証方法

検証項目	指標	手順		評価方法
		施工時	モニタリング	
施工性	資材運搬面の適正 設置手間	運搬方法整理 設置方法整理		各手法間の比較 各手法の施工特性整理
費用	施工単価	施工単価整理 運搬費用整理		各手法間の比較(単体での費用、施工面積当たりの費用、効果面積当たりの費用)
維持管理	維持管理費用		維持管理実績(内容、経費)の整 各手法の維持管理上の特性整理	各手法間の比較 各手法の特性整理
浸食軽減効果	土壤浸食量		月1~2回(冬季除く) 浸食量測定枠による捕捉土砂回収・測定	無施工地、各手法間での浸食量の比較
リター捕捉効果	リター被覆面積率 (落葉後の被覆率、その後の減少率)	設置時の写真撮影	定点の定期的写真撮影(落葉前・後・春季・夏季)	落葉後のリター被覆率とその後の減少率
植生回復度	植生被度	施工前・完成時の写真撮影	定点の定期的写真撮影(夏季)	各手法間の比較 柵内と無施工地の比較
景観	定点写真	施工前・完成時の写真撮影	定点の定期的写真撮影(季節ごと)	各手法間の比較(景観への影響度)

④ 試験施工事例

○施工場所: 清川村宮ヶ瀬(堂平)

○施工時期: 平成17年11~12月

○試験施工手法区分と施工数量

施工手法	手法の種類	数量
リター捕捉ネット	ヤシ繊維ネット使用	3*
リター捕捉ロール	タイプA(丸めてリター詰め)	1
	タイプB(丸めたネット)	2*
	麻袋土のうリター詰め	1
	竹織維土のうリター詰め	1
木製枠工	竹織維ネット併用型	5*
	ヤシ繊維ネット併用型	5*
	タイプA(斜面下部支柱なし)	1
	タイプB(斜面下部支柱あり)	1
	タイプC, D(既製品イノシジ柵)	2
	タイプE(往来保護柵部材)	2
土壤浸食量測定枠	無施工地比較用	8
	モニター用	15



(2) 流域総合保全のための実行計画策定ガイドラインと塩水川流域総合保全推進モデル

策定ガイドライン
総合的、順応的に対策を実行するための実行計画策定の手順書

塩水川流域総合保全推進モデル
塩水川流域の緊急的な問題を解決するための事業実行計画

1 流域の現状と課題の把握

□ 現状把握の項目
○丹沢山地全体における位置づけ
○生き物・水土・地域流域概況
○過去から現在までの経緯
○実施してきた対策事業の実績等

□ 現状把握の方法
○既存資料・データの活用
○不足する情報は新規の調査実施

□ 課題の抽出
○現時点で問題となっている課題
○森林機能の階層性を再生するために必要な課題
○緊急性、重要性の高い課題の抽出
○中長期的視点で解決すべき課題のリストアップ

2 流域の問題構造の整理方法

□ 要因関連図の作成
□ 自然環境問題の整理

3 目標設定の方法・手順

□ 短期的目標
流域において緊急性、重要性の高い課題に対する実現可能な具体的目標の設定
□ 中長期的目標

□ 中長期的目標
中長期的視点で解決すべき課題に対する目標の設定(丹沢全体の再生目標との整合性に留意)
□ 事業計画の策定方法

□ 事業計画の策定方法
□ 問題解決に有効な対策手法の探索、技術の改善・開発
□ 連携・統合すべき事業・施策の選定
□ 流域実態に基づく対策の空間配置
□ 要因の関係性に基づく対策手法の実行手順

5 対策の実行と見直し

□ モニタリングの実施
適切な指標とシファレンスサイトの設定
□ 評価手法と基準
定期的な評価、定量・定性的基準設定
□ 實行計画への反映
見直しの時期・基準

□ 流域の対策全体
○植生回復状況による効果の判定
□ 土壤保全対策
○5年程度で土壤保全効果を判定、対策・技術の再検討
□ シカ保護管理計画
○5年間隔で個体数調整、生息地改善等の効果の判定
□ ブナ林の再生対策
○5年間隔で稚樹、植生の再生効果を判定、対策の再検討